

「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」

終了にあたって

日本オーディオ協会 会長 校條 亮治

実行委員長 西 國晴



世界景気停滞、超円高、東日本大震災後という厳しい情勢のなかで、10月21日（金）～23日（日）に開催いたしました「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」にご来場をいただき、誠に有難うございました。

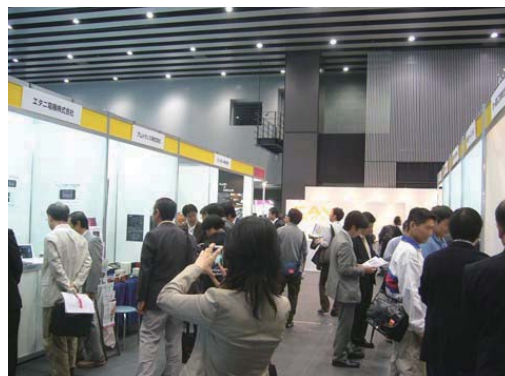
震災影響も懸念されましたが、秋葉原会場に移って今年で3回目となり、ご出展企業数も75社（前年74社）と増えました。三日間で26,600人（昨年比92.7%）のお客様が来場され、大いに楽しんでいただきました。

入場者数減の要因は ①東日本大震災の節電対策要請を受け、1時間繰り上げて閉会したことで、②昨年は（日）、（月）、（火＝祝日）と2日間の休日を含んでいたことが大きいものと推察しています。因みに今年の土曜、日曜の入場者数は昨年を上回りました。開催時間短縮にはなりましたが時間当たりの入場者数は100.8%と昨年以上を上回りました。

東日本大震災復興支援を冠に掲げ、義捐募金も行なうなど有意義な展開も出来ました。ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。大きな事故、トラブルもなく無事終了できましたことをご報告するとともに、ご出展社、各種催事の講師ならびにご出演者、会場運営関係の皆様のご支援とご協力に心からの感謝と御礼を申し上げます。



ご来場者も交えてのオープニングテープカット



UDX 2階 会場風景

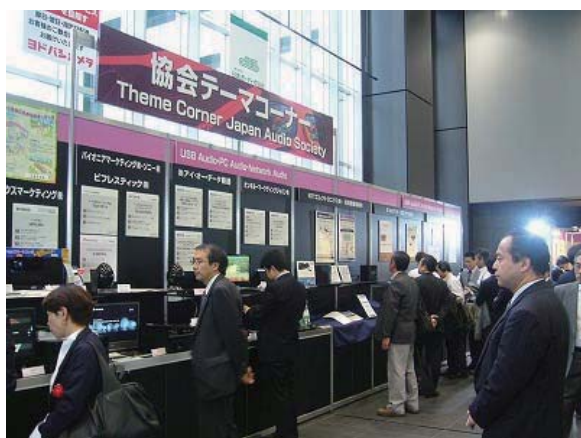
今年のメインテーマは、地デジ移行後のホームシアター普及を念頭に「聞けます、見えます、触れます」「いい音、いい画、いい空間」をベースに、「①音と映像の融合、②マニアのこだわりとビギナーの憧れの融合、③新世代オーディオとホームオーディオの融合、④デジタル技術とアナログ技術の融合」の四つを「30テーマにも上るセミナーと試聴会、体験ツアー」で展開しました。

具体的には、日本ならではの「ホームシアターづくりセミナーと相談窓口設置、AVルーム体験ツアー」の実施、「未発売3D対応ヘッドマウントディスプレイ」の体験、新設の協会企画ならではの「音のサロン」による複数社組み合わせ試聴会、ハイレゾ音源とアナログ機器の組み合わせ試聴会、USB、PC、DLNA、DACなどデジタル系機器を中心として拡張された協会テーマコーナー、第5回となるリニアPCM録音機による「朱雀ライブ録音コンサート」、国内初の高忠実度ロスレス配信の実証実験セミナー、高音質カーオーディオ実車体験、子供から大人までの工作教室など、盛りだくさんの内容で多くのお客様に楽しんでいただきました。また、出版社様による最新技術音源による試聴会、自作アンプコンテスト発表会など大いに盛り上がりました。さらには会場と販売店様試聴室や店頭およびメーカーショールームとを連携した「製販一体」、「地産地消」型の新しい展示会のあり方も昨年に続き展開しました。

告知の方法、お客様の誘導方法や動線ラインのあり方など、まだまだ改善しなければならない課題も多々ありますが、実行委員会を中心にさらに見直しと磨き上げを行なってまいります。

日本オーディオ協会は、国内オーディオ市場の活性化と新市場創造、そして音楽・オーディオ文化＝感性価値創造に向け邁進する所存です。さらなる皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

なお、来期の開催計画につきましては今次報告を取りまとめた上、開催の方向で理事会にて決定次第、後日ご案内をさせていただきます。是非ともご期待いただきますようお願い申し上げます。



デジタル系機器を中心とした協会テーマコーナー



大盛況の「音のサロン」